

CERTIFICATE OF AUTHENTICITY

I hereby certify that the book hereto attached, written in Japanese by Chiang Kai-shek and translated by HATANO Kanichi, consisting of 183 pages, entitled "Chinese Fate" and issued on Feb. 20, 1946, is a book which I wrote and which I had published by NIPPON HYORONSHA.

Certified at Tokyo,  
on this 28 day of Aug., 1947.

/s/ HATANO, Kanichi (seal)

I hereby certify that the above signature and seal were affixed hereto in the presence of the witness.

At the same place,  
on the same date.

Witness: /s/ OGURA, Hiroshi (seal)

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

Def. Doc. No. 2143

Exhibit No. 1



CORRECTED COPY

CERTIFICATE OF AUTHENTICITY

I hereby certify that the book, written in Japanese, consisting of 188 pages, entitled "China's Destiny", written by Chang Kai-shek, and issued on February 20, 1946, is a book which I correctly translated from the original book (issued by Chungking Seichu (近中) Publishing office on 1st January 1944) and had published by NIPPON HYORONSHA.

Certified at Tokyo  
on this 28th day of August 1947.

/s/ HATANO, Kenichi (seal)

I hereby certify that the above signature and seal were affixed hereto in the presence of the Witness.

At the same place.

At the same date.

Witness: /s/ OGATA, Hiroshi (seal)

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

# 中國の命運

蔣介石著  
波多野乾一譯  
校 萃

昭和二十一年二月二十日

日本評論社發行

八名員第一行より左二番第一行まで

民國二十六年七月七日、日本は滿洲に藩口して盧溝橋を占領し、宛平縣を奪取し、南北の交通を遮断して北平を控制下に置かうとした。我等は、この事件の發展は中國の存亡問題なるのみならず、世界人類の禍福の繫かるるところであらうことを知り、且つ日本の處心積慮から見て、和平の経路は望め得ないことを、中國はすでに最後の關頭に達したことをも知つた。一たび最後の關頭となれば、中途で妥協することは許されぬ。中途妥協の條件は全面的投降・全面的滅亡の條件をからず、我等は反て犠牲到底・抗戰到底あるのみぞ。犠牲の決心あつてこそはじめて最後の勝利を得るのみぞ。中國は諸國を、然し民族生命は保持せねばならず、祖宗の遺した歴史的責任は負ねねばならぬ。故に我等は全面的抗戰の國策を確定したのである。

中國の歴史上民族戰爭の先例は少くない。然し今次の抗戰のごとく、規模廣くして犠牲大に、工作艱難にして關係重大なるは、五千年來その比を見ない。特に抗戰の性質は、歴史上いかなる時代の民族戰爭とも同じでない。今次の抗戰は國民革命必至の階段であるばかりでなく、國民革命を抗戰の勝利に隨つて成功せしめ、民族解放・國家建設も亦、その功をこの役に收めさせなければならぬのである。故に抗戰初期、急・府は抗戰・建國並行の方針を確定し、その條目を、抗戰

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

## 中國の命運

蔣介石著  
波多野乾一譯  
校 萃

昭和二十一年二月二十日

日本評論社發行

八の頁第一行より二頁第一行まで

民國二十六年七月七日、日本は滿洲に藉口して盧溝橋を占領し、宛平縣を奪取し、南北の交通を遮断して北平を控制下に置かうとした。我等は、この事件の發展は中國の存亡問題なるのみならず、世界人類の禍福の繫かるるところであらうことを知り、且つ日本の處心積慮から見て、和平の経路にまめ得ないことを、中國はすでに最後の關頭に達したことをも知つた。一たび最後の關頭となれば、中途で妥協することは許されぬ。中途妥協の條件は全面的投降・全面的滅亡の條件だからだ。我等は反々犠牲到底・抗戦到底あるのみだ。犠牲の決心あつてこそはじめて最後の勝利を得るのみだ。中國は弱國だ。然し民族生命は保持せねばならず、祖宗の遺徳を歴史的責任は負ねねばならぬ。故に我等は全面的抗戦の國策を確定したのであつた。

中國の歴史上民族戦争の先例は少くない。然し今次の抗戦のごとく、規模廣くして犠牲大に工作艱難にして關係重大なるは、五千年來その比を見ない。特に抗戦の性質は、歴史上いかなる時代の民族戦争とも同じでない。今次の抗戦は國民革命必至の階段であるばかりでなく、國民革命を抗戦の勝利に隨つて成就せしめ、民族解放・國家建設も亦、その功をこの後に收めさせなければならぬのである。故に抗戦初期、党・府は抗戦・建國並行の方針を確定し、その條目を「抗戦

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

建國綱領に定められた。この綱領は、党臨全大會を通過し、國民参政會の接受したもので、要義が四つある。國際外交方面においては、獨立自主の精神に基づき、世界上の反侵略國家と聯合して共同奮闘し、帝國主義侵略を消滅し、世界として和平人類共存の世界を築くようとするのである。國內政治方面においては、地方自治を以て基礎となし、憲政實施を準備し、その實施以前において國民参政機關を組織し、全國力量を團結し全國意志を集中して國策の推行に利用するに在る。國民經濟方面においては、計畫經濟を實行し、國防と民生とを合一して共同發展せしめ、中國を堅強なる民族國防体に改造するに在る。文化思想方面においては、固有の道德を發揚し、科學的知識を提揚し、頹風を挽救して倫理を樹立し、民智を啓いて精密に勉むるに在る。これによつて綱領が、三民主義原則と國民革命方略との結晶であることが判るだらう。故に五年來内外の形勢は交遷したが、綱領の條目は一貫して變がらない。國民が同心協力してこれを實踐履行するならば、抗戰の勝利と建國の成功とは、必らずや期するところのごとくなるであらう。

七・七以後全國上下は不變の國策下において、人心は振作され民意は集中された。社會の風氣、政治の氣象、一として煥然とせざるはずの、影響がどこへ、不戰論者は形を替へ、或いは露骨に奸人となつて棄てられ、唯戰論者もそのかわがしさを示し、中央政令の推行、地方行政の規畫も亦運用靈敏も昇揚された。軍政・軍令も空前の進歩を示し、中央政令の推行、地方行政の規畫も亦運用靈敏の実效を収めた。生産の計畫化、公業の社會化にも長足の進歩があり、民生主義經濟も根基を樹立することが出来た。思想の統一、言論の紛歧も亦『國家至上・民族至上』の認識中に減じ去つた。國內各社団定規は抗戰の初め一致宣言して政府を擁護し、中國共產黨も亦左のごとく四項の諾言を申述した。『三民主義の實現のために奮闘する。暴動政策及び赤化運動の取消し、暴力を以て地主の土地を沒收する政策を停止する。ソヴェート政府を取消して全國の統一を期する。』

は斷つてねばならぬ。故に我等は全面抗戰の國策を確定したのである。中國の歴史は民族戰爭の歴史は少なくない。然し今次の抗戰のごとく、規模廣くして犠牲大に工作艱難にして關係重大なるは、五千年來その比を見ない。特に抗戰の性質は、歴史上いかなる時代の民族戰爭とも同じでない。今次の抗戰は國民革命必至の階段であるばかりでなく、國民革命と抗戰の勝利は隨つて成功せしめ、民族解放・國家建設も亦、その功をこの後に收めさせなければならないのである。故に抗戰初期、急・府は抗戰・建國並行の方針を確定し、その條目を『抗戰

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

not used

D.D.# 2143

(一)

# 中國の命運

蔣介石著  
波多野乾一譯

校 萃

昭和二十一年二月二十日

日本評論社發行

八の頁第一行より九の頁第一行まで

民國二十六年七月七日、日本は満洲に藉口して瀋陽橋を占領し、宛平縣を奪取し、南北の交通を遮断して北平を控制下に置かんとした。我等は、この事件の發展は中國の存亡問題なるのみならず、世界人類の禍福の繫かるるところであらうことを知り、且つ日本の處心積慮から見ても、和平の経路に非ざるを得ないことを、中國はすでに最後の關頭に達したことをも知つた。一たび最後の關頭となれば、中途で妥協することは許されぬ。中途妥協の條件は全面的投降・全面的滅亡の條件をからず、我等は反と犠牲到底・抗戦到底あるのみぞ。犠牲の決心あつてこそはじめて最後の勝利を得るのみぞ。中國は弱國であるが、然し民族生命は保持せねばならず、祖宗の遺志を歴史的責任は負はねばならぬ。故に我等は全面的抗戦の國策を確定したのである。

中國の歴史上民族戦争の先例は少くない。然し今次の抗戦のごとく、規模廣くして犠牲大に、工作艱難にして關係重大なるは、五千年來その比を見ない。特に抗戦の性質は、歴史上いかなる時代の民族戦争とも同じでない。今次の抗戦は國民革命必至の階段であるばかりでなく、國民革命を抗戦の勝利に隨つて成就せしめ、民族解放・國家建設も亦、その功をこの後に收めさせなければならぬのである。故に抗戦初期、急・府は抗戦・建國並行の方針を確定し、その條目を「抗戦

建國綱領」に定めた。この綱領は、先鋒全大會を通じて、國民革命會の變更したもので、要義が四つある。國際外交方面においては、獨立自主の精神に基づき、世界上の反侵略國家と聯合して共同奮闘し、帝國主義侵略を消滅し、世界として和平人類共存の世界ならしめようとするのである。國內政治方面においては、地方自治を以て基礎となし、憲政実施を準備し、その実施以前においては國民參政機關を組織し、全國力量を團結し全國意志を集中して國策の推行に利するに在る。

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

全面攻撃及び攻撃到底の決心が世界に明らかになつたに拘はらず、日本は、いづれもとのごとく、  
 既定陰謀の遂行を待たず、近衛内閣は再三不満大方針を宣明し、わが前途の時機に果し、獨  
 逸の獨逸を利用して遠和運來の目的を達しようとした。國府がこれを拒絶するや、第二步武漢會  
 戰を以て對獨逸の終戦としようと思へ、一面和平、政治攻勢を採つて對獨逸を結束しようとし、  
 しかも一面北進の獨逸を牽制するつもりで、張鼓峯、ノモンハン事件はこの獨逸に因つて生じた  
 故で、だが日本は、結局全力を以て中國事件に反対せざるを得なくなり、民國二十七年九月

長期作戰に變じ、三原則を基本條件とする『大東亞新秩序』が終に近衛聲明中に出現した、國府  
 はこれに對して毫もなきまでに攻撃を加へ、この内閣は終に倒れた。  
 民國二十八年一月平沼内閣成立するや、獨逸は防共協定を基礎として三國軍事同盟を締結せんこ  
 とを提議したが、日本は中國攻撃に牽制せられて主動地位を失ひ、遷延秋季に至つた。ヒットラ  
 ーは計を改め、蘇聯と不侵協定を結び、歐戰ここに爆發。八月平沼内閣倒れ、繼いで起つた阿  
 部米内閣は歐戰不介入を以て一時を敷衍した。この時期において日本はその廣東侵入の軍事  
 を拡大し、海南島を占領し、南進に轉じたが、この南進も亦中國の攻撃に牽制せられ、その英米  
 への進攻計画を誤つた。日本國策のこのやうな轉變は、中國國策の全面的成功であり、日本大陸  
 政策の失敗の源泉である。これは世界有識者の公認するところだ。

五頁第十行より六頁第一行まで

以上述べた通り、日本の國策、戰略變遷の過程及びその必至の結果に就いては、世人がそ  
 の希る所以を知らないのである。日本軍閥自身も亦、何が何やら判らないのである。日本軍  
 閥は自づから五機詐百出とおもつてゐるらしいが、その実は積算不靈でしかないのだ。彼は中國  
 に對する侵略戦争において、自づから主動の地位に立ち、完全に中國を控制してゐるとしてゐる  
 が、実はさうでなく、彼の國策、戰略は開戦以來常に我等の控制を受けてゐるのだ。故に彼の作  
 戰行動は根本上我等の支配を受け、忽ち被動的な地位に陥り、我等の戰略的指導方針に追隨して、  
 彼の自然崩潰の道路に向つて前進してゐるのだ。

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

紅軍の名義及び番号を取消し、改編して國民革命軍となし、國民政府軍事委員會の統轄を受け、命を待つて出動し、抗戰前線の職任を擔任する。中正はこれに對して次のやうな談話を發表した。『國民革命の目的は中國の自由平等を求むるに在る。總理は嘗て三民主義を説明して救國主義となし、全國々民が一致して國家の危亡を挽救するを以て奮闘せんことを希望した。不幸北伐完成後十年以來一般國人は三民主義に對して眞誠一致の信仰なく、民族危機に對しても亦深刻な認識がなく、革命建國の過程をして無窮の阻礙に遭受せしめ、國力これに因つて消耗し、人民も犧牲となり、遂に外侮日に深く、國家日に危殆に趨くを致した。なほこの期間に在つて中央政府はその一貫せる統一禦侮政策に基づき、忍辱負重、日として精誠團結・共赴國難を以て前提とせざるはなかつた。而して國人の舊三民主義を懷疑したるものも、亦均しく民族利益を以て重しとなし、異見を放棄して一致に趨いた。これは國民が今日、存すればとも亡べればとも亡ぶるの意義をさとひ、全体民族の利害が一切の個人・団体の利害に超出すると認め得ることを證するに足る。』

- 3 -

右四頁第四行より右五頁第三行まで

全面抗戰及び抗戰到底の決心が世界に明らかになつたに拘はらず、日本は眞實もとのごとく、預定陰謀の放棄を請はず、近衛内閣は再三不濟大方針を宣布し、わが前途命の時機に乘じ、獨逸の調停を利用して速和速決の目的を達しようとした。國府がこれを拒絶するや、第二步武漢會戰を以て軍事侵略の終点しようと考え、一面和平・政治攻勢を採つて軍事を結束しようとし、しかも一面北進の衝動を禁じ得なかつた。張鼓峰・ノモンハン兩事件はこの衝動に因つて生じた波紋で、だが日本は、結局全力を以て『中國事件』に對應せざるを得なくなり、民國二十七年九月

長期作戰に變じ、三原則を基本條件とする『大東亞新秩序』が終に近衛聲明中に出現した。國府はこれに對して態度をさまでに攻撃を加へ、この内閣は遂に倒れた。民國二十八年一月平沼内閣成立するや、滿洲は防共協定を基礎として三國軍事同盟を締結せんとし、これを提議したが、日本は中國抗戰に牽制せられて主動地位を失ひ、遷延秋季に至つた。ヒットラ

believe.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

文書成立ニ関スル證明書

本書ニ添付セラレタル日本語ニテ書カレ一八八頁ヨリ成ル蔣介石著波多野乾一訳

中國の命運ト題スル昭和二十一年二月二十日発行ノ書籍ハ自分ガ原本ヨリ正確ニ

翻訳シ日本評論社ヲシテ発行セシメタル書籍ノ一ナルコトヲ證明ス

昭和二十二年八月二十八日

於東京都世田谷区野天町一ノ四五

波多野乾一

(印)

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタルモノナルコトヲ證明ス

同日於同所

立會人

小川浩

(印)

belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.

Not used

DD 2143 (訂正表)

辯護側書類第二一四三号

「中國ノ命運」成立ニ関スル證明書中訂正表

第三行目「原本」ノ下ニ「(一九四四年一月昭和十九年一月)中華民國

三十三年一月一日重慶正中書局發行中國語原」ヲ加フ

Soviet Union should by no means be slighted, to the confirmation of his old belief.

Mr. Arita regarded it necessary to take precautions against the activity of the Soviet Government in the Far East, and entertained also an opinion that the Japanese Government should naturally make some political arrangement with Germany, which was similarly interested in the activity of the Soviet Union. He felt, further, the necessity of alleviating the sense of international isolation prevalent among the Japanese general public after the Manchurian affair, and considered that the rapprochement between Japan and Germany was the most effectual way for that purpose.